

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト 各事業の現状

・R3年度末に終了した「仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト」について、補助を行った団体の現状(R4年9月～11月時点)を整理し、それを踏まえ総括したもの。

ページ	事業名	実施団体	区・支所名	対象地区
2	泉区西部地区の「泉かむりの里観光」推進事業	泉かむりの里観光協会	泉区	西部地区
3	生出地区における共同農作業によるコミュニティづくり	生出地区まちづくり委員会	太白区	西部地区
4	大倉ふるさと農園整備地域活性化事業	大倉栗生町内会	宮城総合支所	西部地区
5	境野地区魅力ある地域づくり事業	さかいの地区創生会	秋保総合支所	西部地区
6	作並温泉郷千年桜プロジェクト	作並温泉郷千年桜プロジェクト委員会	宮城総合支所	西部地区
7	仙台秋保地区・地域資源を活かした観光モデル構築のための拠点整備事業	(株) アキウツーリズムファクトリー 秋保温泉旅館組合	秋保総合支所	西部地区
8	地域の高齢化を高齢者同士の助け合いで克服する仕組みづくり	結いの会高森東	泉区	郊外住宅地
9	鶴が丘「支え合い」コミュニティ・まちチャレンジ事業	鶴が丘一丁目町内会 鶴が丘はあとネット	泉区	郊外住宅地
10	鶴ヶ谷地区の多世代交流まちづくり事業「えがおプロジェクト」	まるっとつるがや	宮城野区	郊外住宅地
11	坪沼農園拡充事業	やるっちゃツボヌマ	太白区	西部地区
12	中山多世代交流センター設置事業	(特非) 中山街づくりセンター なかやま商店街振興組合	青葉区	郊外住宅地

【泉区西部地区「泉かむりの里観光」推進事業】

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名> 泉かむりの里観光協会</p>	<p><種別：補助期間> 調査・検証事業：H29年度 実践事業：H30年度、R元年度</p>
<p><課題></p> <pre> graph LR A[泉西部地区 市街化調整区域] --> B[人口減少 少子高齢化] C[観光事業は未開拓] --> B B --> D[地域産業・地域経済の衰退] E[催し物・特産品がない 域外からの集客・消費の仕組みがない] --> D </pre>	
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源(自然や伝統文化、昔ながらの営み等)を活用し、特産品や観光商品の開発・販売、交流人口の増加・消費額増加に繋げる。 ・泉区西部地区の振興に繋げる。 	
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽トラ市「根白石おもしろ市」による交流人口拡大。 ・特産品（ご縁ゴーフレット）の開発による地域産業の再興・創出。 ・仙台ロイヤルパークホテルとの連携による、アプリを活用した農業体験型サイクリング。 	

<団体の現状>

- ・ 団体は存続している。
- ・ 人件費に補助があった補助期間中は専任の事務職員がいたが、現在はおらず、(株)泉緑化の社員がボランティアで担っている状況。
- ・ 観光協会の法人会員は徐々に増えている。
- ・ 収支は、根白石おもしろ市の出展料により黒字化している。

<事業の現状>

- ・ 全事業継続している。
- ・ 根白石おもしろ市は連合町内会や仙台観光国際協会の職員などのボランティア7~8名が毎回事務局として運営中。後片付けも出店者や事務局で行う仕組みができた。西部地区の参加者はまだ少ないが、固定ファンもついている。
- ・ 体験型サイクリングはロイヤルパークホテルが受付などを含め担当し継続している。コース整備やアプリの拡充などをしたいが、そのための予算がない。
- ・ 特産品事業は、新たに泉水神米（いずみすいじんまい）をブランディングし、ネット販売できないか検討中。地域の特色である農業に目を向けることがまちづくりに資すると考え、お米を取り上げた。

<今後の方向性・本制度への意見>

- ・ 引き続き根白石おもしろ市を柱としつつ、そこでの特産品の販売なども行い交流人口の拡大に繋げていく。
- ・ 本制度については、事務局職員の人件費を対象経費とできたことがとても助かった。

【生出地区における共同農作業によるコミュニティづくり】

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名> 生出地区まちづくり委員会</p>	<p><種別：補助期間> 実践事業：R元年度～R3年度</p>
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学校のうち1校が閉校、残る1校も年々児童数が減少するなど、少子高齢化が進展している。 ・若い世代が都市部へ流出している。 ・自然豊かで住みやすいはずの生出に魅力を感じていない人が増えている懸念がある。 ・農業離れがおき、遊休農地が増加。コミュニティの低下を懸念している。 	
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業をツールとして「交流人口の拡大」「地域住民の活力向上」「地域の魅力を向上させるブランド構築」「遊休農地の減少」「コミュニティの活性化」を図る。 ・遊休農地の活用、高齢者の生きがいづくり、定住人口・若い世代を含めた交流人口の増加、生出地域の活力・魅力を増加させる。 	
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた作物の栽培と販売など、農作業を通じたコミュニティづくり。 ・ビニールハウスや作業場、トイレなどの活動拠点の整備。 ・各種交流イベントの実施。 	

<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>団体は存続している。</u> ・地域のボランティアも増えており、運営体制も強化されている。 ・当初より、収入に応じた活動を考えており、収支面に不安はない。 ・体験イベントの参加費や地域内未収穫柿を利用した干し柿の販売収益を主な収入源として活動している。
<p><事業の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>全事業継続している。</u> ・干し柿やこんにやく作り体験など、農業イベントを継続実施中。 ・主に、一般社団法人ながまちマチキチと連携しイベントへの出展などを行っており、その他の主体とも話があれば連携する予定。 ・東北工業大学とは引き続き連携中。コロナ禍で活動が思うようにできなかったこともあり、今年度は納屋（補助対象外）のお披露目会を予定している。 ・体験イベントには子供も参加しており、交流人口の拡大につながっている。 ・体験イベントは団体が回せる範囲内で実施。収入アップのために新たな取り組みを行うのは体制的に難しい。団体としても現在の形を継続していきたい。
<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>無理なく取り組める範囲で、体験イベントの実施や販売会への参加を継続していく。</u> ・継続していくことで交流人口の拡大だけでなく、地域における団体の定着率にも繋がると考えている。

【大倉ふるさと農園整備地域活性化事業】

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名> 大倉栗生町内会</p>	<p><種別：補助期間> 調査・検証事業：H29年度 実践事業：H30年度、R元年度</p>
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・離農世帯の増加で遊休農地が荒廃し、景観悪化、鳥獣被害が発生。・人口減少、少子高齢化により、地域活力の低下やコミュニティ崩壊の危機に直面している。	
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none">・遊休農地の解消による景観保全と市民憩いの場の提供。・高齢者の生きがいづくり。・農業体験による食の安全と食育の推進。・アクティブシニア等への就農支援、新規就農促進。・交流人口、二地域居住人口などの関係人口の増加促進。	
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none">・遊休農地を活用した市民農園の拡充による交流人口の拡大。・民間企業、教育機関と連携したIT技術活用（センサーやアプリを活用した気象情報、農作業日誌などの共有）。	

<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none">・<u>団体は存続している。</u>・補助期間終了後も農園利用料収入で黒字が確保できている状況。・利用者の中から事業協力者も増えつつある。
<p><事業の現状></p> <ul style="list-style-type: none">・<u>IT技術活用を除く事業は全て継続している。</u>・補助期間中に整備した第一期区画の農園は毎年定員に達している。・HPで募集すると1週間で満員になる。市内からの申し込みが多い。・第二期区画の農園は、農園利用者の中でさらに継続して農業をしたいという方に対して提供している。・仙台高等専門学校、富士通株式会社との連携は終了している。・当初、地元町内会から批判もあったが、事業により農地の景観が良くなり、イノシシ等の被害も減った。今で地元町内会も協力的。・事業により土日に農園参加者などが集まることで、活気が出てきており、地元も顔を知った仲となり交流人口の拡大につながった。
<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none">・<u>協力者を増やしつつ、今後も引き続き農園事業を継続していく。</u>・本制度は、補助の結果が地域に形として残りとてもよかった。

【境野地区魅力ある地域づくり事業】

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名> さかいの地区創生会</p>	<p><種別：補助期間> 調査・検証事業：平成30年度 実践事業：令和元年度、2年度</p>	<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none">・団体は存続し、順調に事業継続している。・会員の高齢化が進んでおり、後継者育成が引き続き大きな課題。・宮城大学との情報交換を行うなど、外部との連携可能性も探っている。・本制度の補助がなくなった令和3年度も自己資金の範囲で活動を行った。・現状収支は黒字だが、体制と資金面から新たな新規事業の実施は困難。・R4年度は太白区のまちづくり活動助成を受け、農業体験イベント等の交流体験プログラムを実施した。
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・働き手の高齢化や担い手不足が進行。・地域課題に取り組む仕組みが無い。・イノシシ等有害鳥獣による農産物等へ被害が深刻化。・遊休農地や空き家が増加傾向。		<p><事業の現状></p> <ul style="list-style-type: none">・全事業継続実施している。・体験プログラムは家族単位の参加により好評。交流人口も拡大の方向。・新規事業として、R3年度に仙台市のふるさと納税事業にあきう生産組合と連携して参画。秋保在来種のそばとそば枕を返礼品として対応中。・R3年度に団体のHPを作成。これを見た関東の中学校より、R5年5月の修学旅行時の農村ふれあい体験への体験要請があり、新たな体験プログラムとして支援協力の予定。・R4年度にも引き続き体験プログラムを実施中。整備した森峯山の散策と史跡を巡る体験イベントをR5年3月に実施予定。
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none">・受け継がれてきた地域文化や自然環境を再認識し、豊かな地域資源を有効活用した様々な体験交流活動を通じ、次世代の担い手の育成を進めながら、心豊かで活力のある魅力的な地域づくりを目指す。・従来の交流拠点を再開発し、特産物の直売や地域情報発信を進め市民・観光客との交流拡大により地域の活性化を図る。・荒廃した里山や旧街道などを、住民・市民参加による整備や美化促進を図ることで、新たな景勝地の開発や有害鳥獣対策に繋げ、地域資源の有効活用と交流拡大を目指す。・事業を通じ担い手の育成と域外からの移住者の定住化を促進する。		<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none">・会の目的である交流人口の拡大や域外移住者の定住促進のため、地道に活動を継続の予定。補助金活用は状況に応じて有効に活用していく。・本制度は、団体単独では資金的に困難な項目（例：仮設トイレのリース、竹の伐採破砕処分等）などが実現できて、大変有益であった。・整備作業ボランティアへの弁当代など、参加者の確保に繋がる食糧費が全て補助対象外である点がいづらかったため、改善を希望する。
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none">・産直市を核とした交流拠点の整備と地域情報発信の継続。・景観名所（森峯山）の整備及び交流イベントの開催。・史跡名所の散策探訪ルートの整備と散策等の交流イベントの開催。・希少生物等の地域資源活用による魅力創出及びワークショップ・イベントの開催。		

【作並温泉郷千年桜プロジェクト】

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名> 作並温泉郷千年桜プロジェクト委員会</p>	<p><種別：補助期間> 実践事業：R元年度～R3年度</p>
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作並温泉への来訪者数が伸び悩んでいる。 ・地域の人口減少と高齢化の進行にも歯止めがかからない状況。 	
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉旅館組合・地元町内会・企業等が連携して本プロジェクト委員会を立ち上げ、国道48号の線形改良工事等に伴って発生する空地や伐採された桜等の有効活用を足掛かりとして、「生きがいと地域活性化」をコンセプトとした地域事業に取り組む。 	
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路線形改良工事に伴い伐採された桜並木の地域固有種を活用した復活。 ・桜の植樹に向けた苗木養育ワークショップの開催。 ・同工事エリア外の地権者調査及び桜の植樹。 ・市による旧街道の遊歩道整備にあわせた、広瀬川河畔に通じる自然体験ゾーンの整備。 ・同工事により伐採された桜の木材を活用した小物製作ワークショップの開催。 	

<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>団体は存続している。</u> ・作並温泉旅館組合や作並振興組合（ラサンタ）と連携し取組みを進めている。後継者の育成も行っているところ。 ・運営経費は、仙台観光国際協会の西部地区観光振興事業で補助を受けている。
<p><事業の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>全事業継続している。</u> ・現在は、作並菊桜も増倍中であり、作並温泉旅館組合とR5年第3回植樹祭を検討中。 ・木工品制作関連事業にて切り倒した桜の木のコースターを作成中。R5年2月頃完成予定。 ・R4年度、国で新たな木の伐採を行う予定で、出来上がった新湯渡戸橋も今後より景観が良くなっていく予定。
<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>本事業は、毎年継続的に桜を植樹していくもので、桜並木になるまで5～10年かそれ以上を要する。地道に植樹を継続していく。</u>

【仙台秋保地区・地域資源を活かした観光モデル構築のための拠点整備事業】 仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名></p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社アキウツーリズム ファクトリー 秋保温泉旅館組合 	<p><種別：補助期間></p> <p>実践事業：H29年度～R元年度</p>
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で異業種の事業者同士が連携できる体制づくり。 地域の事業者の所得を向上させる新たな産業の創出。 	
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 秋保の生産者、生産される商品、観光事業者の認知度向上。 秋保の住民、事業者の横断的なコミュニティづくり。 秋保の住民、事業者の所得向上。 秋保の観光入込客数、経済消費額の増加、経済圏の拡大。 	
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 古民家改修による観光交流拠点施設を起点とした地域内外の連携体制の強化飲食。 サイクリング等の提供による交流人口の拡大。 地元食材等による地域独自産業の創出。 	

<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 団体は存続している。 収支は現在黒字化している。 株式会社アキウツーリズムファクトリーと秋保温泉組合とは新規事業を行う際に連携している。直近ではお酒と食のツーリズム「テロワージュ」事業で連携した。
<p><事業の状況・課題の解決></p> <ul style="list-style-type: none"> 全事業継続している。 アキウ舎の利用者数は年間35,000人。ターゲットを若者に変更しSNSでマーケティングを行い約10,000人のフォロワーを獲得した。定期的に情報配信を行うことで女性を中心にリピーターが増えた。 地域内の様々な事業のプロデュースを行い、交流人口の拡大に取り組んでいる。秋保オリジナル商品、結婚式、アキウルミナなど。 住民や事業者の会合の場に場所を提供するなど、地域のコミュニティづくりにも取り組んでおり、地域とも繋がりが継続している。
<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も団体としての事業に取り組みつつ、広く地域の魅力の向上に取り組んでいく。事業目的にある通り、秋保の人やその背景にあるストーリーにスポットをあてていきたい。

【地域の高齢化を高齢者同士の助け合いで克服する仕組みづくり】

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名> 結いの会・高森東</p>	<p><種別：補助期間> 調査・検証事業：H29年度 実践事業：H30年度、R元年度</p>	<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>団体は存続している。</u> ・人材確保にも無理なく取り組んでいる。後継者も育成中。 ・R2年に運営体制を強化。事務局の下に部会やリーダー会を設置し、補助終了後も部会やリーダー会を実施。 ・結いカフェにて宮城大学や地域包括支援センターと連携している。 ・団体の収入源は基本的に会費。会員数は約300人。 ・結いカフェの協力金等もあり、収支は継続して黒字。
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度4月時点の高齢化率が27%、団塊の世代が「後期高齢者」となる7、8年後には40%を超える見込。地域の高齢者同士で助け合う仕組みづくりが差し迫った課題。 		<p><事業の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>全事業継続している。</u> ・活動場所を市民センターなどにも広め、町内会の回覧版でも周知を行うなど、認知度も高まっている。 ・泉パークタウン内の連合町内会・地区社協及び区社協・泉パークタウンサービス等と情報共有を図り、研修会等を開催及び参加して事業内容の充実に努めると共に、他団体との連携した事業も検討している状況。
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に本格的な「助け合い」の仕組みを作り上げること。 ・これにより、将来高齢者が多い地域となっても過ごし易い地域であり続けること。 		<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>団体の体制、収支面に大きな不安はないが、団体の中核を担う会員も高齢であるため、後継者の育成も進めつつ、継続できる範囲で事業を実施していく。</u>
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内商業施設での「結いカフェ」、認知症カフェ「めいめいカフェ」などのみんなの居場所づくり。 ・ゴミ出し、庭木の手入れなど高齢者向けの助け合い活動。 ・高齢者の見守り・安否確認活動。 ・健康体操会、体力測定会、身体測定会などの健康推進活動。 		

【鶴が丘「支え合い」コミュニティ・まちチャレンジ事業】

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴が丘一丁目町内会 ・鶴が丘はあとネット 	<p><種別：補助期間></p> <p>調査・検証事業：H29年度 実践事業：H30年度、R元年度</p>
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発から40年以上経過した郊外住宅団地で、少子高齢化が進展。 ・少子高齢化・店舗撤退により、かつての生活基盤が揺らいでいる。 ・住み慣れた地域環境をどのように立て直すかが団地全体の課題。 	
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災を機にコミュニティの大切さを再認識し地域回復を図る。 ・多世代が、日常生活・子育て・福祉等の身近な交流を通じ、共に支え合う地域環境を創出し、元気で住み良い地域をめざす。 	
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院付添い、ゴミ出し、庭の除草など高齢者向けの支え合い活動。 ・地域花壇づくり、菜園づくり、子供たちの環境学習などのコミュニティ環境活動。 ・子どもと高齢者の「遊びと学びと食の交流」による多世代交流活動。 ・会食ツアー等の外出誘導支援（制度上の課題もあり未実施）。 ・空き家利活用サポート活動。 	

<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体は存続している。鶴が丘はあとネットは高齢者向け活動のみ ・役員は総会により選出している。 ・補助期間終了後のR2、3年度は仙台市の協働まちづくり助成にエントリーした。
<p><事業の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会を中心に継続している。 ・R4年度に3年ぶりに夏と秋の交流会を開催し、計1500名が参加。 ・白百合女子大学と連携した夏祭り・ハロウィンイベント、駅伝、スタンプラリーや健康体操教室など多世代の健康交流を実施。 ・R5年度も四季折々に音楽・スポーツ・食の地域交流も検討中。 ・花壇・菜園づくりは公共緑地の環境維持からスタートしているが、マンパワーや維持費が相当な負担。単なる手入れで終わらせず、住民同士の環境レクリエーションとして町内全体で楽しめる活動に発展させ、落ち葉アートなどの新たな企画も実施した。 ・外部の人から様々な提案もあったが、実際に活動する住民や学生達の声や発想を第一にすることで地道な取組みが進められている。
<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も出来る範囲内での活動を試み、町内会費や外部資金を活用するなど予算やマンパワーを踏まえ必要な事業を行っていく。 ・本制度については、まちづくり活動のきっかけとして弾みになったが、計画に掲げた食交流の食材が最終的に対象外に扱われる場面もあり、行政支援のあり方を住民目線で柔軟にして欲しかった。

<p><団体名> まるっとつるがや</p>	<p><種別：補助期間> 調査・検証事業：R元年度 実践事業：R2、3年度</p>	<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>団体は存続している。</u> ・R3年度は本補助金や地元学冊子の販売収入により繰越金が発生。 ・現状では、R5年度以降に赤字となる見込み。 ・そのため、マルシェの出展料値上げなど、新たな収入源の確保を検討中。
<p><課題> 高齢化が進む地域における子育て世代の定着と多世代交流。</p>		<p><事業の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>全事業継続している。</u> ・新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、その中でも可能な範囲で各事業を実施できている。 ・特に「居場所カフェ」と「まるっとマルシェ」は、認知度が上がり、令和4年度は区や社協との連携も実施（例：子育て相談会）。 ・デジタルネットワーク勉強会は、スマホ教室から、PC修理などの困り事対応の場になった。地域のニーズに合わせ柔軟に対応した。
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアが見守り、育てる地域「鶴ヶ谷」。 ・地域全体を対象にした事業によって生まれる、安心と笑顔のまち。 ・地域団体と連携で生まれる「きっかけ」づくり。 ・デジタルで生まれるコミュニケーション。 シニアが子育て世代や子供世代など全体をサポートし、子育て世代もシニアをサポートする関係を確立することを目標とする。 		<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>現状無理なく進められている多世代交流を、今後も継続していく。</u> ・本制度へのエントリー当初は、事業を上手く組み立てられず苦労したが、地域で話し合いを重ね、無理のない形を見つけられた。 ・振り返ると、本制度がきっかけとなり話し合いが進み、地域が結束できた。エントリーしてよかったと感じる。
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアと子育て世代が支え合う多世代交流の取組み。 ・地域の魅力を再発見する地元学による各種ワークショップ。 ・シニア向けスマホ、SNS等のデジタルネットワーク勉強会。 ・手作り雑貨やクラフト商品の販売するマルシェ。 ・シニア、子育て世代、子供の交流の場である居場所カフェ。 		

【坪沼農園拡充事業】

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名> やるっちゃツボヌマ</p>	<p><種別：補助期間> 調査・検証事業：R元年度 ※補助期間は1年のみ。以降は申請せず。</p>
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢化の進行とともに、耕作放棄地の増加や山林の荒廃が進むなど、地域の自然、文化、産業、さらには地域の教育環境やコミュニティの維持が一層、困難になっている。 ・地域づくり活動を地域資源の維持・継承・発展に結び付ける地域力の強化が課題。 	
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・坪沼地区では地域力の向上につながる地域づくり活動の柱として、都市部生活者との交流活動がある。その中でも坪沼農園として長年の実績がある市民農園事業が収益事業の柱になる可能性がある。 ・坪沼農園事業の拡充を図り、自ら持続的発展ができる仕組みを構築することが目標。 	
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の市民農園よりも手厚い支援サービスを盛り込んだ「おもてなし農園」の検討。 ・農園指導者の育成等による交流促進。 	

<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>団体は存続している。</u> ・現在、会長と事務局は坪沼の住民だが、地域外の方もイベント等を支援している。 ・人口減少が進む地域では、交流人口を増やし、地域外の方に団体の運営も含め担ってもらうのでもよいのではと考えている。 ・農園の指導者育成についても、農園を修了した地域外の方に声をかけ、これまで6名指導者になった。
<p><事業の状況・課題の解決></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>補助を受け実施した「おもてなし農園」は、外部企業や団体へのおもてなしのための農園だったが、現在は終了している。</u> ・現在実施している市民農園（栽培指導型農園及びレクリエーション農園）は、各参加者が楽しむためのものと位置付けており、地域外の方を対象としている。 ・事業の実施にあたり収支面で問題はない状況。 ・R2年度から宮城大学と繋がり、坪沼のPRビデオを作り太白区チャンネルに投稿するなど広報を実施。それ以降、新規の農園利用希望者が増えている。
<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>人口減少が進む中で、外部の方の力を借りつつ農園事業を継続していく。</u>

【中山多世代交流センター設置事業】

仙台市郊外住宅地・西部地区まちづくりプロジェクト

<p><団体名></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかやま商店街振興組合 ・NPO法人中山街づくりセンター 	<p><種別：補助期間></p> <p>実践事業：H29年度～R元年度</p>
<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発から50年が経過した丘陵地の住宅団地で、地域住民の高齢化が進展している。 ・少子高齢化などに伴う地域課題を解決し、子供から高齢者まで各世代がバランスよく共生し、元気な子供たちの声が響く、新たな中山地域の街づくりを進める必要がある。 	
<p><事業目的・事業目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流センター「とびのこハウス」を整備し、当該センターを拠点とし、地域の多様な世代が集えるコミュニティの場、地域課題解決の場として運営を行う。 	
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流センター「とびのこハウス」における住民向けの各種教室の実施。 ・レストラン「みんなの食堂」での地域の多世代交流の場づくり。 ・地域内の空き家・空き地の管理。 	

<p><団体の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>団体は存続している。</u> ・<u>新型コロナウイルス感染症の流行以降、事業実施に必要な体制を整備できていない。</u> ・<u>コーディネーターや個別事業の担当が不在。体制整備の検討中。</u>
<p><事業の現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>令和2年の新型コロナウイルス感染症の流行以降、ほとんど事業を実施できていない。</u> ・「とびのこハウス」にて、本制度の補助対象外事業である児童クラブの運営は行っている。
<p><今後の方向性・本制度への意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>本制度で整備した「とびのこハウス」を活用する新たな多世代交流事業や、団体の収入を支える事業などを再度検討中。</u>

<各事業実施団体について>

①団体の存続状況

補助を行った全団体が、現在も存続している。一方、存続はしているが事業を実施できていない団体もあった。

②団体の収支状況

3年間の補助で収支面で安定するのは困難との声もあったが、補助期間終了後も活動を継続できるような収支を維持している団体もあり、本制度を上手く活用した成功事例となった。一方、補助金がなくなることで事業の継続が困難となるが、収入の範囲内で活動を行うという考えの団体もあった。

③後継者の育成状況

団体によっては、事業に参加した子育て世代の親への声かけなどにより、後継者育成に上手く取り組んでいる。各団体の活動地域が少子高齢化や人口減少が進んでいる場所であるため、地域の实情にあわせ、団体毎に取り組むことが必要である。

<各事業について>

①新型コロナウイルス感染症との関連

全団体が事業の縮小、中止などの影響を受けているところだが、制限のある中で事業を実施できた団体が多い。

②地域内での無理のない事業継続

事業がうまく継続している団体では、団体内で話し合いを重ね、無理なく取り組める範囲を意識している印象があった。

<本制度について>

①地域内で話し合うきっかけになった

補助金申請は事務負担が多く発生し大変だという声がある一方、本制度へのエントリーを機に地域で話し合いを行い、団結できたという意見もあった。

②地域課題解決のきっかけとなった

地域団体は資金面がネックとなり、地域課題の解消に取り組めないケースがある。今回、地域団体に直接補助を行い「地域でやりたかったができなかった取組み」を行うきっかけ作りに繋がったと考えられる。

③対象経費の範囲

事務局の人件費や委託費など、対象経費とできる範囲が広く事業推進に役立ったという声があった。一方、人件費は対象だが、ボランティアに対する弁当代などの人件費相当の食糧費や、交流事業に必要な食材費が対象外である点が活用しにくいといった声もあった。

④現地を確認した上での助言

本制度は、年に2回専門家による事業への助言の場を設けていた。これに加え、定期的な現場視察の機会を設けられれば、より効果的な制度運営ができたと考えられる。